

コンソーシアムの活動状況を知っていただくため、不定期でかわら版を発行しますのでご一読ください。

● 令和6年度通常総会・記念講演を開催しました

6月5日(水)、会員企業・団体から計99名が出席し、岐阜グランドホテルにて岐阜県森林技術開発・普及コンソーシアム令和6年度通常総会・記念講演を開催しました。

冒頭、涌井理事長から、「おかげさまで、本コンソーシアムは本年9月で創立10周年を迎えることになる。当初は72者でスタートしたが、昨年度末には115者まで増えた。コンソーシアム中核をなす4つの委員会でも着実に成果を上げている。先月14日、G-クレジット制度において、中津川市と東白川村森林組合に対して初となる認証証が交付された。まさに県内森林の新たな価値が顕在化された好例といえる。また、世界を見渡せば、一昨年のCOP15から、ネイチャーポジティブの議論が進んでいる。コンソーシアムとしても、国内外への先進事例調査や交流活動などを通じて実りある活動を強化していく」とあいさつをいただきました。

通常総会では、令和5年度の事業実績・収支決算、令和6年度事業計画(案)・収支予算(案)の4つの議案について全て原案通り承認されました。

承認された事業計画に沿って、共同研究活動や交流活動などを展開してまいりますので、会員の皆様の積極的な参加をお願いします。

総会に続き、清水建設株式会社 常務執行役員 環境経営推進室長 金子美香氏から「企業の脱炭素、生物多様性の実現に向けた取り組みと森林との関わり」と題して講演いただきました。

会場では各委員会における活動報告パネルの展示、大型運搬ドローンの紹介などを行いました。



涌井理事長によるあいさつ



金子美香氏による記念講演



会場の様子



各委員会における活動報告パネル



(株)ROBOZ 様による展示

● メンツィムック社製 4 輪多関節型作業機械（スパイダーM545）の現地見学会を開催しました

林業の成長産業化を推進するためには、労働生産性の向上や労働災害の低減を図る必要があることから、これまで様々な最新式林業用機械をご紹介してきたところです。

令和6年6月13日（木）にメンツィムック社製4輪多関節型作業機械（スパイダーM545）のデモンストレーションを森林文化アカデミー スマート林業推進係と共催して実施しました。本機械が傾斜地を進み、伐採された倒木をグラップルで移動させる作業を見学しました。本機械は、岐阜県に1台しかなく、所有している株式会社カタギリテック様にご協力いただきました。

スパイダーM545は独立して動かすことができる4輪駆動のタイヤを有しているため、急傾斜地や河川等、これまでの重機では侵入が困難な場所での作業を可能にします。また、アタッチメントはグラップル、ハーベスタや掘削バケットなどを取り付けることができます。



デモンストレーションの様



独立した4輪駆動のタイヤ

● 竹パウダーソイルを用いた作業道軟弱地盤対策施工地見学会を開催しました

可茂森林組合が竹と木質バイオマス発電の焼却灰をリサイクルして新たな土壌基盤材を開発したため、木材生産改善委員会では、軟弱な作業道で利用できないか実証試験を行い、令和6年7月3日（水）に見学会を開催しました。

竹パウダーソイルは竹をパウダー状まで破碎し、木質バイオマス灰、酸化マグネシウムを混合したもので、割合は竹5：灰4：酸化マグネシウム1となっています。

また、吹付施工の厚さは5cmを基準とし、施工目的や現場の状況に応じて割合、厚さを変えることも可能とのことでした。

参加者からは、「重機やトラックの走行後の状況が知りたい」、「黒ボク、マサ土での試験施工もしてほしい」、との意見が多くありましたので、場所を変えて試験施工を行いたいと思います。今後、白川町黒川地内の施工地については、秋頃に利用間伐を行う予定となっていますので、重機等走行後の報告も併せて行っていきます。



見学会状況



吹付厚 5cm

コンソーシアムで取り組んでほしい活動などありましたら、事務局までお気軽にご連絡ください。

発行：岐阜県森林技術開発・普及コンソーシアム 事務局（岐阜県立森林文化アカデミー内）

〒501-3714 美濃市曾代88 / TEL:0575-35-2535 / FAX:0575-35-2529

E-Mail: gifu.shinrin.conso@forest.ac.jp